

新規事業採択時評価結果（令和2年度新規事業化箇所）

担当課：道路局国道・防災課  
担当課長名：奥村 康博

事業の概要

事業名	空港・港湾等アクセス道路 一般国道428号 箕谷北	事業区分	一般国道	事業主体	兵庫県 神戸市
起終点	自：神戸市北区山田町下谷上 至：神戸市北区日の峰4丁目	延長	1.0km		
<p><b>事業概要</b></p> <p>一般国道428号は、神戸市の臨海部から三木市に至る路線である。国際コンテナ戦略港湾である神戸港と神戸市内陸の産業団地とを結ぶ主要な経路となっているため、コンテナ車等の大型車の通行も多い。当該事業は、神戸市北区山田町下谷上から神戸市北区日の峰4丁目までの約1.0kmを整備するものである。</p>					
<p><b>事業の目的、必要性</b></p> <p>一般国道428号箕谷北は</p> <p>① 地域の活性化 狭隘・線形不良区間の解消により特に大型車の通行環境が改善され、物流の効率化が期待</p> <p>② 防災機能の向上 豪雨による事前通行規制や法面崩壊による通行止め等の影響を受けなくなるため、災害時の救助活動や物資輸送などの迅速性・確実性が向上に資する事業である。</p>					
全体事業費	約48億円	計画交通量	約18,200台/日		
<p><b>事業概要図</b></p>					

事業評価結果

費用対便益	B/C	2.1	総費用：38億円 （事業費：37億円 維持管理費：1.0億円）	総便益：80億円 （走行時間短縮便益：72億円 走行経費減少便益：7.0億円 交通事故減少便益：1.5億円）	基準年 令和元年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.9 (交通量 -10%)	B/C=2.2 (交通量 +10%)		
		事業費変動	B/C=1.9 (事業費 +10%)	B/C=2.4 (事業費 -10%)		
		事業期間変動	B/C=2.1 (事業期間 +20%)	B/C=2.2 (事業期間 -20%)		
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	○	交通の転換により並行する路線の混雑を緩和		
		事故対策	◎	狭隘箇所や交差点数が減少し、交通事故の減少に寄与 国道428号の現道区間における事故実績：17件/5年（H26～H30）		
		歩行空間	◎	国道428号の現道区間から、通過交通が排除されるため、交通量は大きく減少。これにより、安全な歩行空間を確保できる。		
	社会全体への影響	住民生活	○	第三次救急医療施設への搬送時間が短縮 [神戸市内陸部～神戸市立医療センター中央市民病院]		
		地域経済	○	狭隘・線形不良区間の解消により特に大型車の通行環境が改善され、物流の効率化が期待		
		災害	◎	豪雨による事前通行規制や法面崩壊による通行止め等の影響を受けなくなるため、災害時の救助活動や物資輸送などの迅速性・確実性が向上		
環境		-	注目すべき影響はない。			
	地域社会	◎	周辺市町から神戸港へのアクセス性が向上することにより、地域間交流の活性化が期待される。			
事業実施環境	○	地域住民や近隣の産業団地の利用者、三木市などから早期整備の要望を受けている。				

採択の理由

事業主体である神戸市が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が2.1と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。  
また、当該箇所の狭隘・線形不良区間解消により、神戸港へのアクセス性向上、交通事故の低減、災害時の通行止めの抑制などが見込まれることから、当該事業の整備の必要性・効果は高いものと判断される。  
以上により、本事業は令和2年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

**関係する地方公共団体等の意見**  
地域住民や近隣の産業団地の利用者、三木市などから早期整備の要望を受けている。

**学識者等の第三者委員会の意見**  
-

**事業採択の前提条件**

- 費用対便益：便益が費用を上回っている。
- 周辺地域への事業説明が進んでいることから、円滑な事業執行の環境が整っている。